

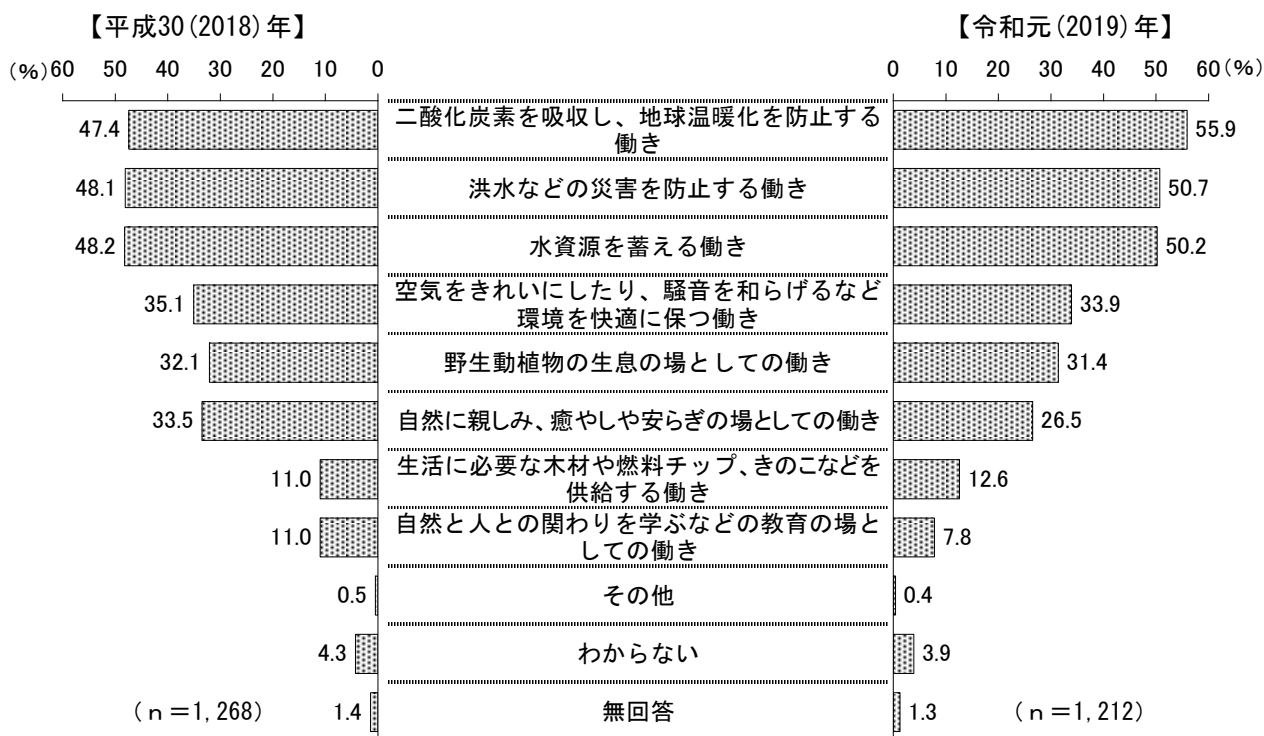
8 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問23 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,212]

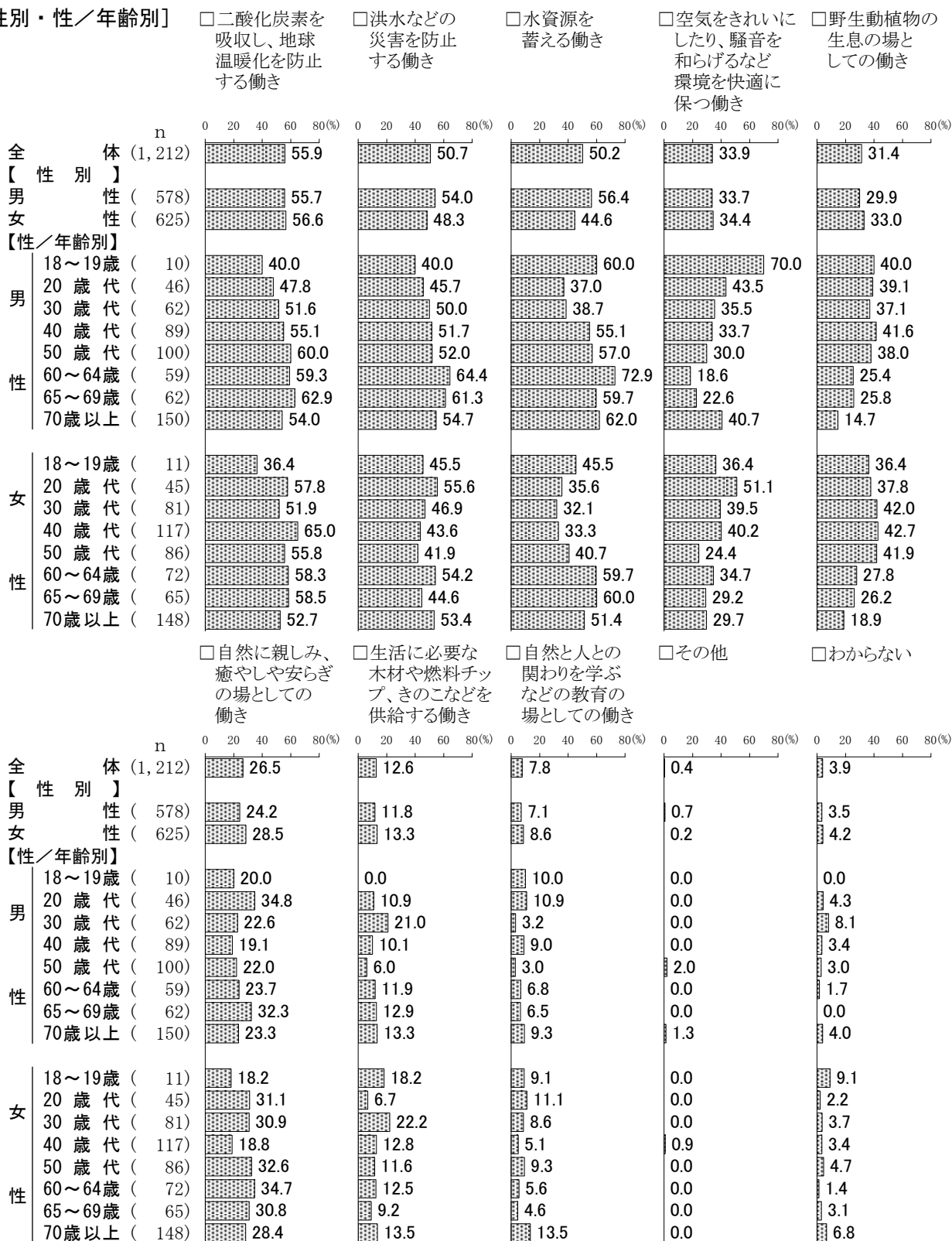
1	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	12.6%
2	水資源を蓄える働き	50.2
3	洪水などの災害を防止する働き	50.7
4	野生動植物の生息の場としての働き	31.4
5	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	33.9
6	自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き	26.5
7	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	7.8
8	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	55.9
9	その他	0.4
10	わからない	3.9
	(無回答)	1.3



全体でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「洪水などの災害を防止する働き」(50.7%)、「水資源を蓄える働き」(50.2%)、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」(33.9%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(31.4%)の順となっている。

平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」が8.5ポイント増加している。一方、「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」が7.0ポイント減少している。

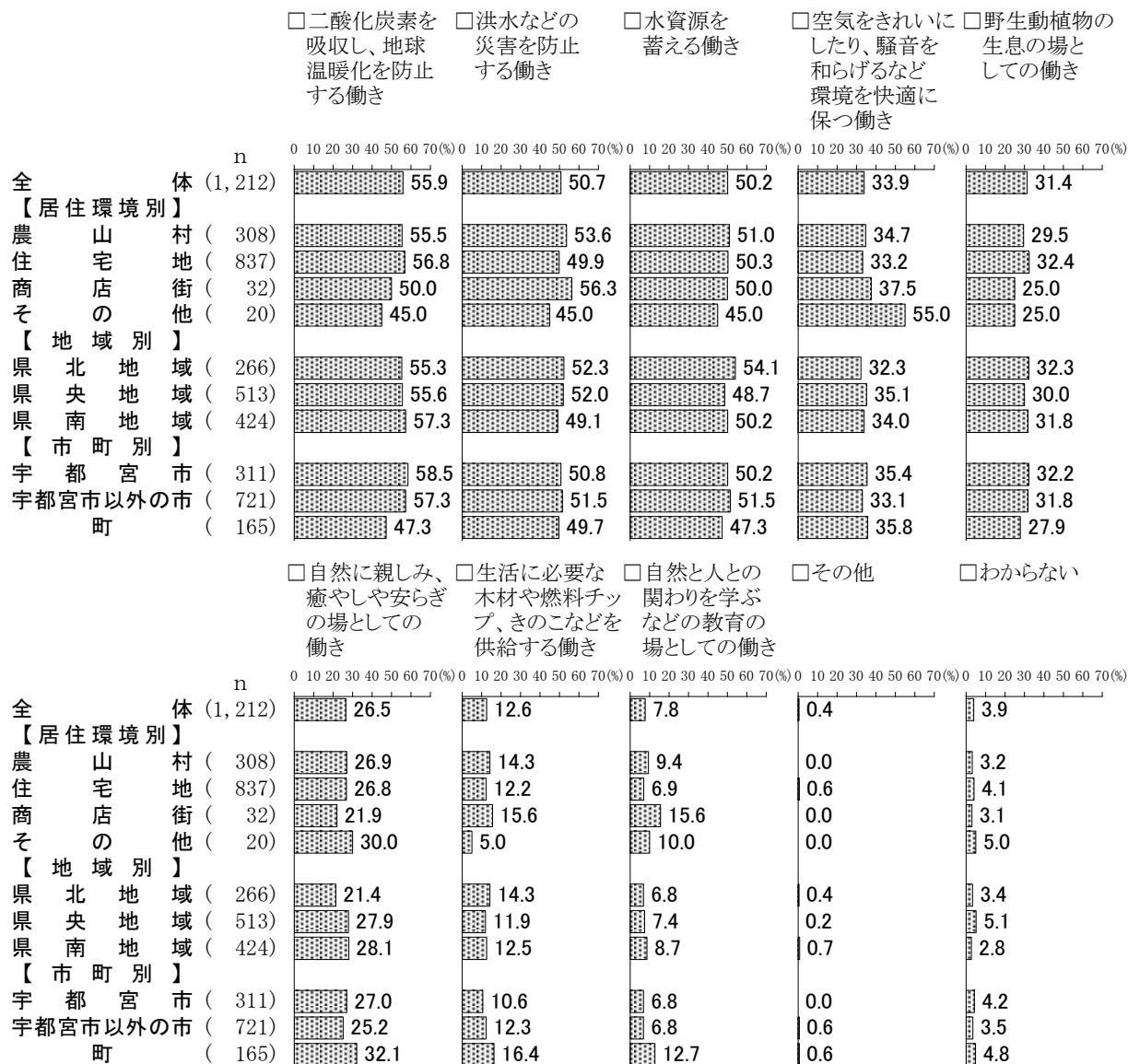
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(56.4%)が〈女性〉(44.6%)より11.8ポイント高くなっている。「洪水などの災害を防止する働き」では〈男性〉(54.0%)が〈女性〉(48.3%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈女性40歳代〉が65.0%と高くなっている。「洪水などの災害を防止する働き」では〈男性60~64歳〉が64.4%と高くなっている。「水資源を蓄える働き」では〈男性60~64歳〉が72.9%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈女性20歳代〉が51.1%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈商店街〉が56.3%と高くなっている。地域別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈県北地域〉が54.1%と高くなっている。市町別で見ると、「自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き」では〈町〉が32.1%と高くなっている。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問24 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,212]

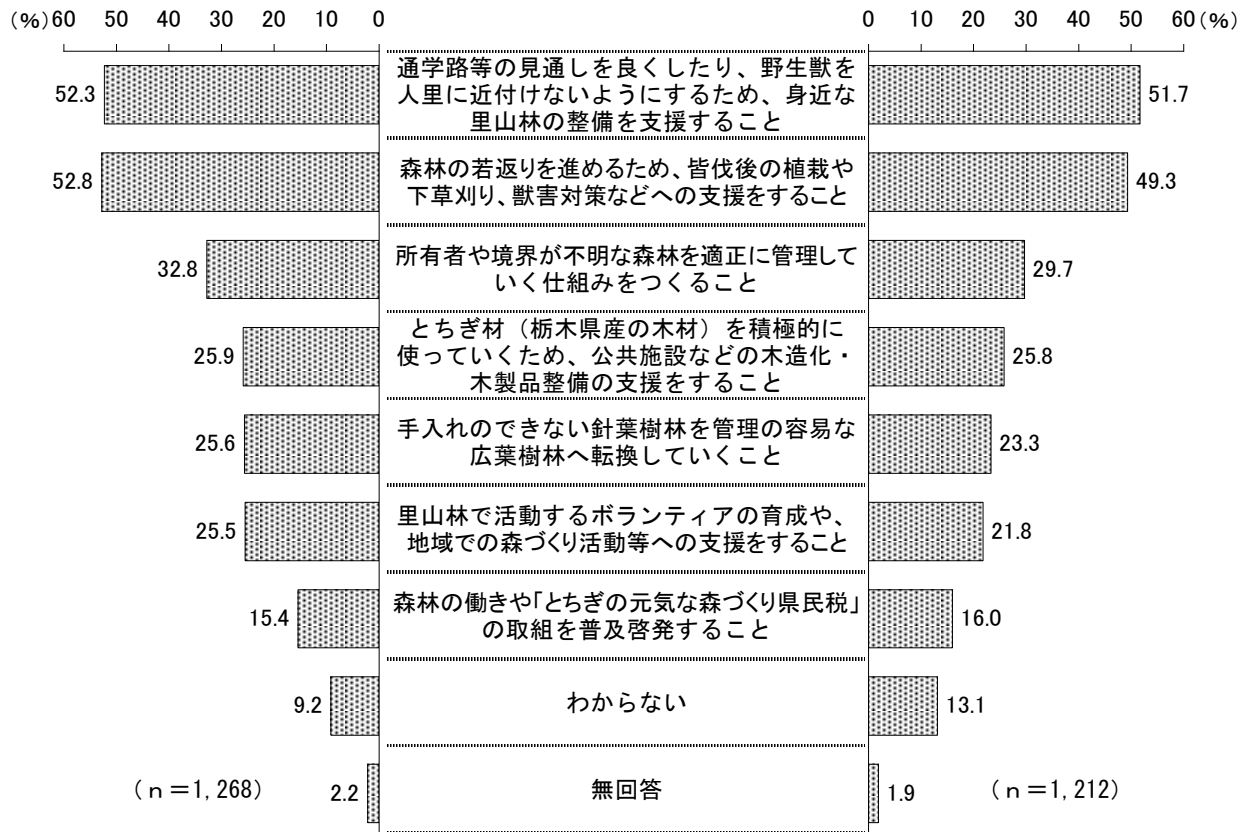
1	森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること	49.3%
2	とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること	25.8
3	手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと	23.3
4	通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること	51.7
5	里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること	21.8
6	所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること	29.7
7	森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること	16.0
8	わからない	13.1
	(無回答)	1.9

全体で見ると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」（51.7%）が5割を超えて最も高く、次いで「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」（49.3%）、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」（29.7%）、「とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」（25.8%）、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」（23.3%）の順となっている。

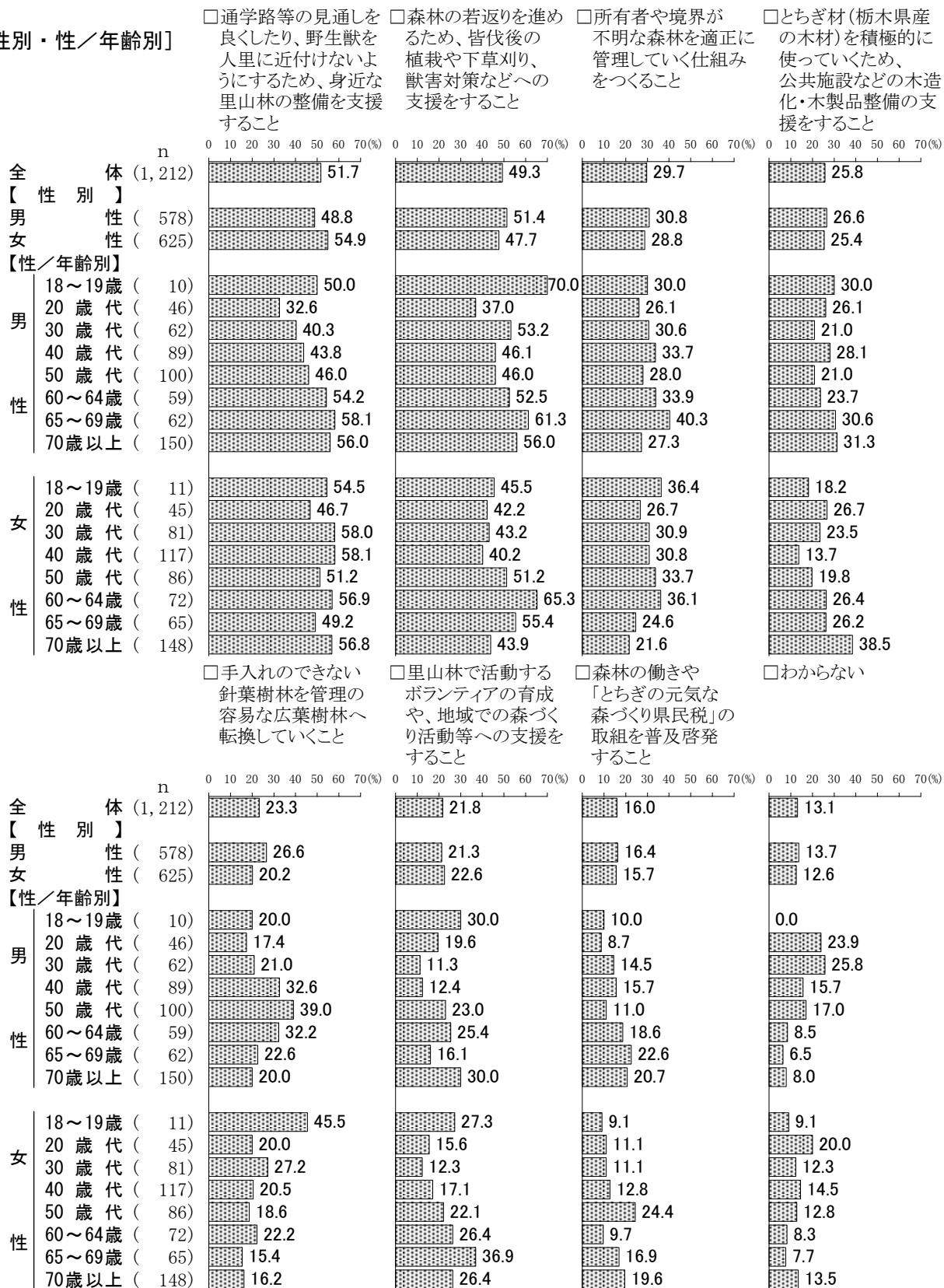
平成30（2018）年の調査結果と比較すると、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」が3.7ポイント、「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」が3.5ポイント、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」が3.1ポイント、それぞれ減少している。

【平成30(2018)年】

【令和元(2019)年】



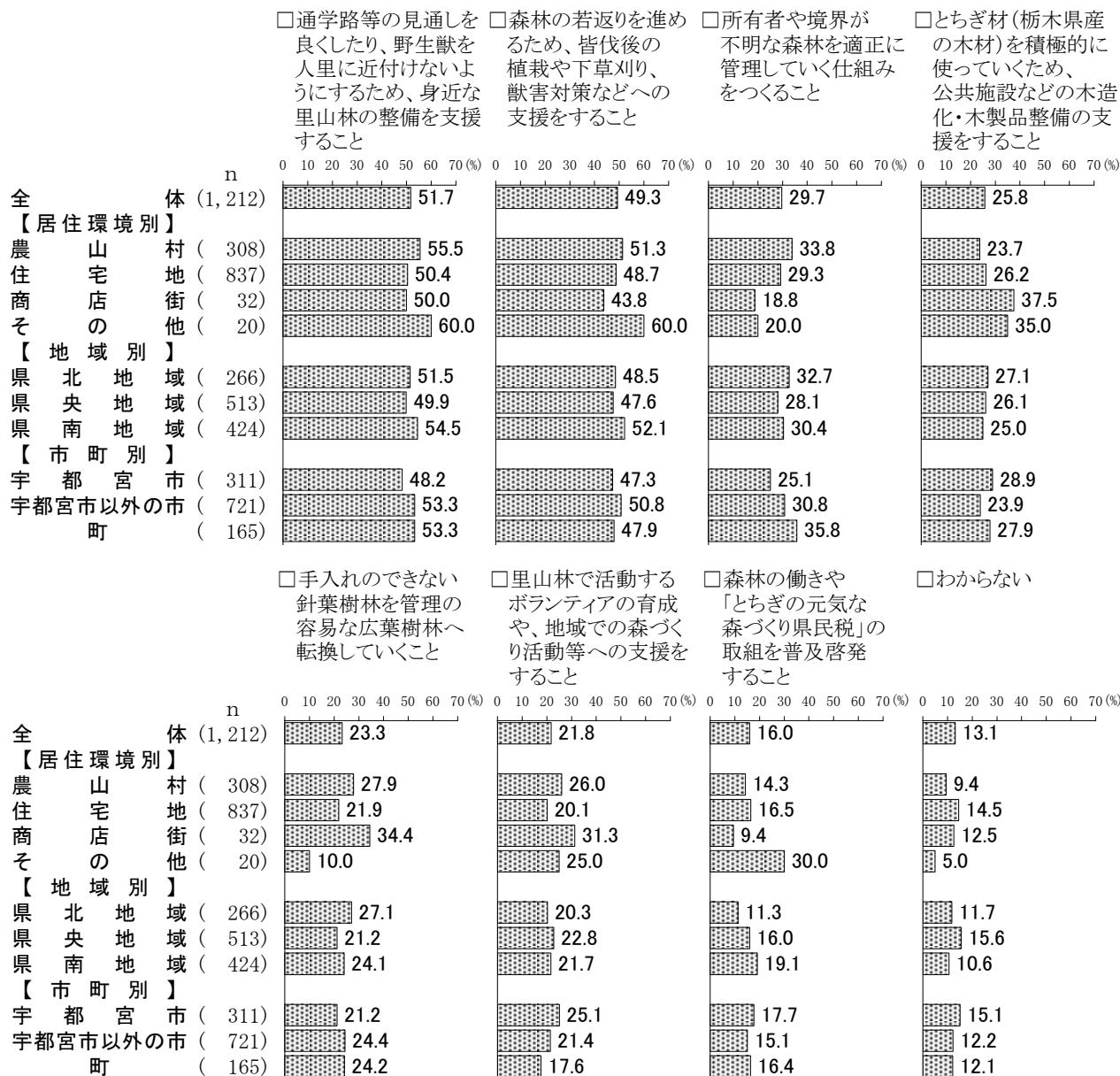
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(26.6%)が〈女性〉(20.2%)より6.4ポイント高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉(54.9%)が〈男性〉(48.8%)より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」では〈女性60~64歳〉が65.3%、〈男性65~69歳〉が61.3%と高くなっている。「とちぎ材(栃木県産の木材)を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」では〈女性70歳以上〉が38.5%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈農山村〉が33.8%と高くなっている。「とちぎ材（栃木県産の木材）を積極的に使っていくため、公共施設などの木造化・木製品整備の支援をすること」では〈商店街〉が37.5%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」とでは〈商店街〉が34.4%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈商店街〉が31.3%と高くなっている。

地域別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈県北地域〉が27.1%と高くなっている。「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」では〈県南地域〉が52.1%と高くなっている。

市町別でみると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈町〉が35.8%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈宇都宮市〉が25.1%と高くなっている。